地域の元気を集めてつくる

山王網一色 ほっと通信

No. 5　山王70区自治会　2025.8.4

回覧

サイレンが鳴り響いた一日／7月30日

カムチャッカ半島付近でM8.7の超巨大地震

ロシアのカムチャッカ半島付近を震源とするマグニチュード8.7の巨大地震が、7月30日午前8時25分ごろ発生しました。北海道から和歌山県にかけた太平洋沿岸部に津波警報、沖縄までの地域に津波注意報が出されました。

小田原市では、沿岸部10地区に対し「避難指示」を発令。同11時半ごろまでに山王小学校を含む10校に避難場所を開設しました。この日は、携帯電話の緊急メールや自治体の防災行政無線から流れるサイレンの音が鳴り響きました。

4階の音楽室にて

山王小学校に避難場所開設

高齢者・車いす利用者
ペット同伴者ら60人

山王小学校では、4階（海抜18.2㍍）の音楽室をメインに車いす利用者、ペット同伴者用など複数の避難場所を確保しました。市防災無線の津波警報を聞いて避難所開設前から待つ人もいて、駆け付けた市配備職員3人と自治会関係者らが連携し、約60人を受け入れました。車いす利用者1人、愛犬などペット同伴者は10人でした。

津波ハザードマップによると山王小学校は、0.3㍍～1.0㍍の津波が予想されていますが、避難所となる同校4階は海抜約18.2㍍、屋上は同約21.8㍍となっています。

音楽室には、海岸近くに住む高齢者、児童クラブの子どもや親子連れなどが駆け付けました。また、ペット同伴室では、環境が変わり戸惑う愛犬に寄り添う人たちの姿も見られました。避難した人たちは、テレビから流れるニュースに変化がないことなどから、午後1時半過ぎに順次帰宅しました。

避難場所について、国道1号の北側に住む人たちからは「海岸近くの小学校への避難は、抵抗がある。自宅の2階へ垂直避難する」などの声もありました

8月20日に開かれる避難所運営会議では、今回を教訓に車いす利用者の介助、長期避難を考慮した対応など”いざ”に備えた議論が求められています。

30年に1度の高波に備える！

西湘BP小田原ICに「越波対策」

西湘バイパスを管理する中日本高速道路㈱では、同バイパス小田原ICランプ（降り口部）周辺で30年に一度おこると言われる高波「30年確率波」を想定した越波対策を進めています。

工事は、山王公民館付近からICランプまでの延長約266㍍の擁壁に高さ約2㍍、幅約1.8㍍の大型波返し工150基を積み上げ、越水を防ぎます。来年2月の完成を目指しています。

「30年確率波」に備える
大型波返し工

同地区では、令和元（2019）年の台風19号により、家屋等損壊（3軒）、床上・床下浸水（12軒）の被害が出ています。

明治35（1902）年9月28日、後に小田原大海嘯（だいかいしょう）と言われる高波が小田原町など沿岸1町12村を襲いました。

惨状を克明に描いた「小田原大海嘯絵巻」は23枚からなり、「水の高さ箱根山のように盛り上がり、それがこぼれて一気に打ち上げた」「山王村松原のほとりにあった家屋は、先頭の一波で崩れた」などと記されています。

120数年前 大海嘯（高波）が小田原を襲った！

この海嘯を機に海岸防波堤築造が、小田原町の重要課題となり、同38（1905）年4月に延長約2150㍍の海岸防波堤が完成しました。

告　知

NEXCO　中日本

西湘バイパス
小田原IC
下り線出口
夜間ＩＣ 閉鎖
本線は通行できます
8/18（月）⇒
9/2（火）
各日22時～翌6時（12夜間）

予備日：9/3（水）～9/12(金)
＊土・日は実施しません

”子どもが主役”の夏休み

一日のスタートは
ラジオ体操から

❖会場／山王原公園（西湘BP際・ゴルフ練習場隣）
❖時間／午前６時30分～、NHK第一ラジオ

集合・解散／自由

”元気の輪”拡げて6年目
山王網一色ラジオ体操愛好会